

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の英語の未来へバトンをつなぐ



令和3年8月発行
西部教育事務所

今年度は清水中学校が英語科授業づくり講座の拠点校になっています。新たなことにチャレンジしながら、研究を深めています。今回は、教材研究会（6月9日（水））、授業研究会（7月8日（木））の様子を紹介します。

教材研究会 令和3年6月9日（火）

第2学年 Unit3 My Future Job 話すこと【発表】イ

単元構想の特徴

- ★育成を目指す資質・能力を身に付けた生徒の姿を起点とした単元構想
- ★国語科と連携した単元構想
- ★言語活動の中での文法導入

清水中学校では、「いつもゴールがALTになってしまう。今回は『友だち』に相手意識を持たせたい。」との思いから、学習指導要領解説外国語編 P.64 を基に、次のような言語活動を設定し、提案しました。

目的: 友だちに自分のことをよりよく知ってもらうため
場面: 他コースとの合同授業で、自分と別のコースの友だちに
状況: 自分の興味・関心のある職業についてスピーチする



西部管内の
講座関係HP



<教材研究会での視点及び出された意見>

視点①

単元ゴールが、生徒が意欲的に取り組みたくなる目的・場面・状況となっているか

- ※話したくなる必然性、しかけを工夫する。
- ※「自分のことをよりよく知ってもらうため」なので、職業にこだわらなくてもよいのではないか。
- ※現在夢のない生徒は、今頑張っていることや何年後の自分に向けてのメッセージでも良いのではないかと。

視点②

単元ゴールに向けた各時間のめあてや学習活動につながりはあるか。

- ※第1時（単元の初めに）、自分の力（現在地）を実感する場を設定するとよい。
- ※「より自分を知ってもらう」なので、スピーチに理由や思いをたくさん入れることが必然となるのではないかと。
- ※単元ゴールでよりよい発表にするために、単元半ばでミニ発表会を開いてはどうか。

教材研究会を受けて

英語科より

「今日の教材研究会を受けて、職業について話す生徒のためにも国語科と連携することが大切であると感じた。ただ、職業について取り組みにくい生徒もいるため、単元ゴールを職業に限定せず、もう少し広げて『自分の将来像や夢を語ろう』にしたい。」
「他教科からの意見は、英語科だけでは気づきにくい視点であった。今後集約してより良い授業にしていきたい。」

学校より

英語科授業づくり講座での学びを他教科へ広げていくことで、学校全体で授業改善に向けて取り組んでいきたい。

<英語科におけるポイント>

ポイント①

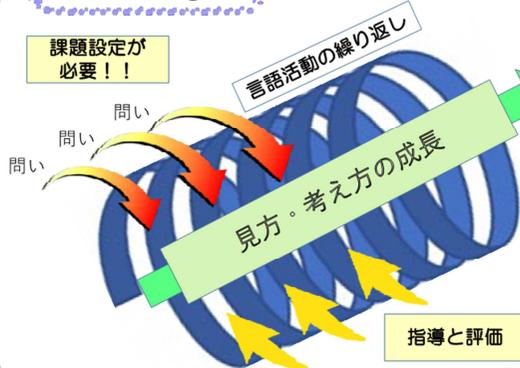
資質・能力ベースの授業づくり

授業づくりの起点は、育成を目指す「資質・能力」を明確にすることです。

単元で身に付けさせたい資質・能力と、その資質・能力に合った言語材料や言語活動を、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」でつなぎ、密接に結び付けながら単元を構想することが大切です。

ポイント②

課題設定が必要!!



単元ゴールを描く

「その表現が使われる場面に自ら気づき、その表現を場面に合わせて使う」という経験をする必要がある。言語活動の中でその目的・場面・状況にふさわしい表現に気づき、活用させる。

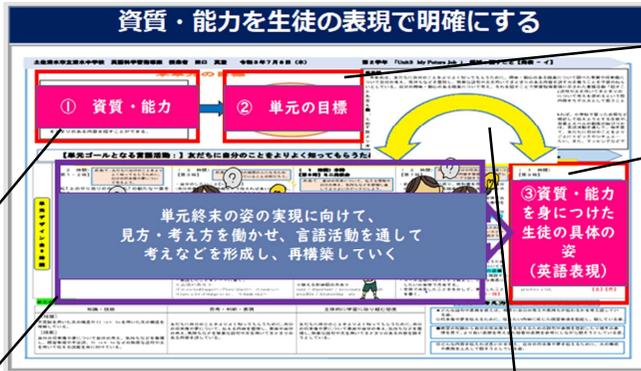
能力ベースの授業づくり p.125 より

見方・考え方が豊かになる単元づくり
言語活動の中で目的や場面、状況に応じて考えを形成、再構築するための問いを持ちながら、単元だけでなく、1時間の授業においても見方・考え方を働かせるよう仕組むことが大切です。

清水中
英語科

授業者
田口 真澄先生

清水中学校で昨年度行われた社会科授業づくり講座での取組を基に、今年度は英語科でも「清水中学校オリジナル学習指導案」を作成しました。単元づくりを行う際には、このような手順で単元を作っていきます。



②この単元で付けたい資質・能力に合わせて、単元の目標を立てます。

③資質・能力を身につけた生徒の姿を、具体的な英語表現で明確にします。

①まず「この単元で付けたい資質・能力は何か」を確認します。

④言語活動を通して、問い、気づきを繰り返して考えなどを形成、再構築していきます。

⑤目標が達成されれば「効果的だった手立て」は何か、達成されなければ「必要だった手立て」は何か、と指導と評価を一体化させて振り返ることが大切です。



授業者より

協議で出されたご意見をもとに、授業改善に取り組んでいきたいと思っております。山田調査官より教えていただいた3つのポイントを、毎授業で実践していきたいです。



<連鎖を断ち切る POINT>

英語科の昨今の課題

知っているけど使えない…
授業は楽しそうだけど、
テストで点が取れない…

この連鎖を
今、断ち切る！！

文部科学省 山田 誠志 教科調査官

POINT 1 新出言語材料の導入は意味と使い方から

新しい文法を導入する時は、ルール(形式)から教えるのではなく、**シチュエーション(場面)を設定し、場面の中でその言語材料の意味と使い方を理解させる**ことがまず第一です。**形式を教えるのは後**に回すようにしましょう。

文法は言語活動を支えるものです。形式ではなく、内容が先にあります。「知っているし、中学生なりに使える。自分なりに点数も取れる。」ようにすることが大切です。

POINT 2 中学校英語における見方・考え方を働かせる

見方・考え方が働いている場面

表現内容も英語も西方生徒が考えることが大事!

この状況なら、何を言えばいいだろう? (表現内容)

英語で何て言うんだろう?(英語)

そのためには、**目的・場面・状況が必要**です。生徒が必要を感じて自ら整理したり思考したりする場面が、英語の思考が働いている場面と言えます。気づきを促すような声かけや工夫が必須です。Aさせたい時に「Aしなさい」と言わないことがポイントです。

POINT 3 例文を見ずに取り組ませる

"Close your notebook."で生徒を鍛える!

教科書の最大のデメリットは、目的・場面・状況が明確に設定されていないこと、そして、例文が示されていることです。例文が示されていると、多くは皆同じ順で同じ内容になってしまいます。モデルに沿っていただけでは力が付きません。

その上、知識・技能(正確さ)も思考・判断・表現(表現内容)も評価することができません。

補助輪を付けばなしでは、自転車に乗れるようにはなりません。単元を通して、単元終末に向かって、補助輪を外す(例文を見ずに取り組ませる)練習をしていくことが大切です。

参加者の声

単元づくりや授業づくりの中で何を大切にするか、目的・場面・状況をどう設定するか、また中間指導の在り方についても悩んでいたのが、学ぶことが多く有り難かったです。

授業づくりをしていく中で、なんとなくモヤモヤしていた事が解決できた気がします。明日からの実践に生かしたいと思っております。

学校に帰ってすぐに共有します!!